

広島大学附属東雲中学校 卒業式

式 辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ここ東雲で、いま皆さんの今日の姿のように立派な成長を遂げ、義務教育の全課程を修了されたことを、心より喜び合いたいと思います。皆さんが東雲中学校に入学した2023年5月には、ここ広島市では初めてとなる先進国首脳会議・G7広島サミットが開催されました。皆さんが二年生となる2024年12月には、日本原水爆被害者団体協議会・日本被団協にノーベル平和賞が授与されました。

そして皆さんが三年生となった2025年は被爆から80年の年でしたが、その年に私は皆さんと出会い、同じ時間を過ごせたことを、とても幸せに誇りに感じています。昨年春の最初の朝会で私から皆さんに、広島大学の初代学長である森戸辰男さんの話をしましたが、森戸さんは学長になる前にはどんな経験をしたのか覚えてくれていることと思います。

その後の朝会などの中でも、皆さんの大先輩であるカルビー創業者の松尾孝さん、デザイナーの三宅一生さん、そして三宅さんのタートルネックを生涯にわたり愛用したスティーブ・ジョブズさん、「この世界の片隅に」を描かれたこうの史代さんなどのお話をしてきました。

ここまで皆さんに紹介してきた皆さんの先輩方や先達と呼ばれる方々にはある共通点があると考えています。その一つは、先輩や先達の皆さんは、必ずしも失敗のない成功ばかりの人生を送られてきたのではなく、むしろそれぞれの皆さんが次の舞台やステージにむかっていく中で、他の人以上に紙一重の難しい選択や判断や挑戦に挑まれてきたことです。

もう一つは、この方々はこれまでも世の中に既にあつたものを誰もが考えつかなかった発想でつなぎ直すことにより、それまでになかった新たなものを創出されてきたことです。それは例えば、広島の小エビからかっぱえびせん、一枚の布から折り鶴のように立体化する服、そして広島での事実をもとにした新たな物語です。

この先も皆さんには、東雲の先輩たちのように、まだ誰にも見えていない次の舞台とステージにむかって、いまできることを、いま発揮できる力をもって、臆することなく自信をもって、進み臨んでいってくれることを期待しています。

おわりに保護者の皆様に申し上げます。ここまで本校の教育活動に格別のご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。第77回卒業生の皆さんの中学校の卒業と義務教育の修了を、心よりお祝い申し上げますとともに、ますますの成長を東雲の教職員一同、心よりお祈り申し上げます。広島大学附属東雲中学校の第77回卒業生の皆さんの今後、そして未来に、幸多きことを祈念して、式辞といたします。

令和8年3月5日

広島大学附属東雲中学校長 永田 忠道